

資料①：平成 26 年度 第 1 回会議の議事録

平成 26 年 10 月

南城市

1. H25 年度実証運行結果報告について

委員	事務局
登録者はどのように募ったのか。	区会長の説明、民生員の活動、市の広報誌などで行った。
登録者の加入促進を行うとあるが、登録者数は増えているのか。	4 月以降の 2 ヶ月間で 200 人以上登録者数が増えている。
「おでかけなんじい」と同じように、「観光おまかせなんじい」の結果も、1 日何便で何日運行したなどと詳細な説明があると良い。	「観光おまかせなんじい」は予約にかかわらず、1 日 5 便運行している。期間中の運行本数について資料(今回委員会の資料②)に記載する。
実際のデマンド交通の利用は、想定よりも「多かった」、「少なかった」のどちらだと感じているか。	登録者数は、想定よりも早いペースで増えた。南城市は昼間人口が少ないため、多くの利用は望めないと考えていたが、日中の少ない時間でもお年寄りの利用があり良かったと感じている。
平均的な走行キロのデータはあるか。労働条件等に関係するので、把握したほうが良い。	運行開始からの走行距離の記録はある。
公民館の利用者が多いが高齢者向けの何かあるのか。立ち寄り先として、がんじゅう駅やおきなわワールドもあるが、市民と観光客両方の利用があるのか。市民と観光客は別々に集計した方がよい。	公民館は、サークル活動で利用が多くなっている。がんじゅう駅・おきなわワールドは、通勤での利用も確認されている。市民と観光客に分けて立ち寄り先を整理する。
3 月 31 日までの最終のとりまとめ結果が必要	今回委員会で配布

2. 平成 26 年度の進め方について

委員	事務局
<p>「観光おまかせなんじい」の許認可は、どのようになるか。定期観光バスのような扱いになるのか。</p>	<p>路線定期運行の一般乗合旅客自動車運送事業となる。</p>
<p>南城市外の人なら、誰でも観光客となるのか。</p>	<p>市内を観光するのであれば、基本的に縛りはない。</p>
<p>市内では 65 歳未満の人は利用できないが、車を持っていない人は利用できると良い。</p>	<p>市内の交通手段は、市内・市外とも脆弱であるが、一気に進めるのではなく、まずはお年寄りの外出の機会を増やすのと、それから観光客と順を追って進めている。</p>
<p>デマンド車両は、「おでかけなんじい」と「観光おまかせなんじい」で区分けはあるのか。</p>	<p>10 人乗り 1 台は、「観光おまかせなんじい」となる。残りの 10 人乗り 1 台と 8 人乗り 3 台が、「おでかけなんじい」になる。</p>
<p>現在、65 歳以上人口が約 9,000 人、うち登録者数が約 1,000 人、うち利用している人は 470 人というのは、高齢者の外出支援に資しているのか。</p> <p>前回、予約の仕方が分からないという意見があったので、登録や利用も実際に一緒にしてあげる等、独居や高齢夫婦の支援が必要である。本当に必要な人に利用できるシステムの確認が必要である。</p> <p>路線バスでさえ、30～40 年前に乗ったきりという人もいるので、民生員の方に協力をお願いして、イベントなど設けて試しに一緒に乗ってみるのも良いのではないか。</p>	<p>乗り方がわからない方に対する親切な広報やレクチャーを強化する。また、必要な人が利用できているのかデータの取り方を工夫する。</p>

3. 有償実験計画の素案について

委員	事務局
運行経費は市が負担するが、予想以上に収入があったり、逆に収入が少なかったりする場合には、誰が貰い、誰が負担するのか。	足りない部分は市が負担する。委託先とは概算契約になる。
300円は妥当か。那覇市内が230円なので一つの目安になるかと思うが。	支払意思額は300円には満たない。200円では意思額から離れる。現金なので10円単位をなくしたい。まずは300円で実験したい。
現金であれば、記録やエビデンスはどうなるのか。一括交付金であれば、会計検査があるはずだが対応できるのか。	システムが構築されており、誰がどこまで乗ったのかが記録される。
ドライバーが、現金を扱うのか。路線バスではドライバーは現金を扱えないようになっている。	収受方法の詳細は受託業者との協議で決定する。
現在使っている車両ではなくて、改めてリースをするのか。	現在は、レンタカーを利用しているが、緑ナンバーでの運用は出来ない。改めて緑ナンバー用の車両を南城市が用意する。
「おでかけなんじい」も「観光おまかせなんじい」も、基本的には一般乗合事業である。使用する車両は緑ナンバーにすることで、保安基準もあるため、事前に相談してもらえれば調整したい。	車両の保安基準等について相談したい。
利用者アンケートはするのか。	実施予定である。
経費について、270万/月とざっくりとしたものではなく、システム・人件費・ガソリンなど細かく出すほうが良い。	直近の9月の経費の内訳を整理し、資料(今回委員会資料②)に記載する。

4. 有償実験の公募について

委員	事務局
選定基準の環境への配慮は、ハードルが高すぎないか。アイドリングストップだけで良いのでは。	ご指摘の箇所は、国交省のガイドラインに示されている内容であり、南城市は、アイドリングストップを想定している。